

# 一人一人を確実に伸ばす授業の創造

## — 確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする児童の育成 —



- 学校名 春日部市立上沖小学校
- 所在地 春日部市大沼5丁目44番地
- TEL 048-736-3710
- E-mail [kamioki@educet.plala.or.jp](mailto:kamioki@educet.plala.or.jp)
- URL <http://www.kamioki.av-center.kasukabe.saitama.jp/>

### 1 研究主題

- (1) 研究主題 一人一人を確実に伸ばす授業の創造  
～確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする児童の育成～
- (2) 研究主題設定の理由
  - ア 学校教育目標との関連から  
学習指導要領、「かすかべっ子 はぐくみ プラン」の趣旨に沿い、確かな学力の育成をめざすためには、校内課題研修を推進し、日々の学習活動を充実することが必要である。そのためには、児童の学習意欲の向上と基礎・基本の定着が不可欠である。また、授業内容を十分に理解し深めるためには、児童が意欲を持ち、繰り返し学習することが重要である。
  - イ 児童の実態から  
全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の様々な調査の結果や日常の学習の様子から、よい点として、基礎基本の定着・読書の習慣が身につけていること、ペアやグループなどの話し合い活動に、意欲的に取り組んでいることが挙げられる。しかし、改善すべき点として、自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝えられないことや、学習活動の場に合わせて関わるのが苦手であることがあげられる。

### 2 研究の実践

- (1) 学び合い学習におけるめざす児童像
  - ア 課題に対して解決するための自分の考えを持っている子
  - イ 自分の考えを分かりやすく伝えられる子（話し合いの中で）
  - ウ 友だちの考えを自分の考えと比べながら聞ける子
  - エ 自分の考えを振り返り見直すことができる子
- (2) 研究の仮説と授業の重点
  - ア 仮説1  
自分の考えをしっかりともち、課題解決に向かって意欲的に解決する場を設定すれば、自ら学習する児童が育つだろう。
    - ・基礎基本の徹底～日常の繰り返し学習の充実、読書活動、話型の定着
    - ・意欲を高める工夫
      - ～国語では、単元を貫く学習活動とゴールを目指した授業
      - ～導入の工夫
      - ～教材教具の工夫

## イ 仮説 2

自分の意見を表現し、他と比較しながら聞く話し合い活動を続けていけば、学び合う姿勢が身につくであろう。

- ・思考ツールの活用
- ・異同を見つける
- ・同じ点をまとめる
- ・他のことと結びつけ、関係づける
- ・良さを見つけ合う話し合い活動
- ・比べたことを表す



## ウ 仮説 3

学習を振り返り、自己評価や相互評価をする学習を積み重ねれば、確かな学力が身につくであろう。

- ・自分の学習を振り返る習慣  
～自分の変容、他者からの学び、他者の良さを認めるなど
- ・学習の蓄積～ポートフォリオ化
- ・互いを評価し合う場面の工夫  
～相互評価  
～評価の観点を明確にした授業

## (3) 校内課題研修「考え、話し合い、学び合う学習」の推進

### ア 国語、算数、英語活動、道徳の4つの教科等を中心に研究（小中連携）

イ 考え、話し合い、学び合う学習の学習過程（見通す・取り組む・振り返る＝自己との対話・他者との関わり・考えの発展と実践へ）を取り入れた学習計画の推進

#### 【国語】（1年・4年）

- ・単元を貫く言語活動の継続（見通す、振り返る）
- ・話し合いマニュアルの定着（取り組む）
- ・学び合う学習の手法を取り入れた授業展開（単元の一部ないし1単位時間の中で）

#### 【算数】（2年・3年）

- ・課題提示と解決方法の確認（見通す）
- ・自力解決と話し合いによる練り上げ（取り組む）
- ・習熟の確認（振り返る）～振り返りカード…記号と言葉による
- ・学び合う学習の手法を取り入れた授業展開（単元の一部ないし1単位時間の中で）

#### 【道徳】（5年）

- ・資料分析を深める。
- ・言語活動を積極的に取り入れた授業。（話し合い活動）
- ・導入→展開→終末の段階に学び合う学習の手法を取り入れる。

#### 【英語活動】（6年）

- ・外国語能力の基礎や表現力、コミュニケーション能力の素地を養う。

- ・どの子どもも楽しく活動できる授業づくり
- ・題材計画や本時の展開の中に学び合う学習の手法を取り入れる。

ウ 話し合い活動の充実、思考ツールの活用

- ・思考ツール活用例



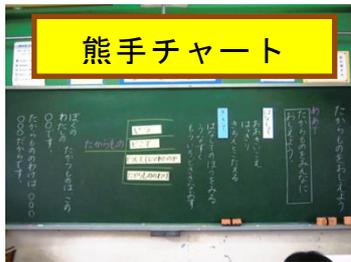
矢印・囲み



ベン図



Yチャート



熊手チャート



イメージマップ



ピラミッドチャート

エ 振り返りカードやまとめからの効果検証

オ 指導案の見直し

- ・仮説に対する手立てと目標・評価を一体化する指導案の工夫。
- ・主な学習活動の中に、学び合う学習の具体的手法（思考ツール）と仮説との関わりを明記する。

この時間には、ボックスチャートを使用した展開で、仮説2の①と②の手立てを行う。

6 指導と評価の計画（全8時間）

次時	主な学習活動 学び合う学習の具体的手法 仮説との関わり	学習内容	評価基準・評価方法
第1次	① 教師が作成した「読書ポスター」を見て、学習の見直しをもち、「読書ポスターで、友だちに本を紹介しよう」という学習課題を設定する。（仮説1-①②） ② 「一つの花」という題名から、物語に興味をもつ。 ③ 教師の読談を聞き、初巻の感想を待つ。	・ポスターの構成や内容をつかむ。 ・「平和」をテーマにした本の並行読書を促す。 ・題名には作者の思いが込められていることを伝える。	アの①② ・観察 ・ノート ・発言
第2次	④ 語の設定を確かめ、人物の行動や会話に着目し、人物の気持ちや世の中の様子、出来事を押さえる。（仮説1-③） ・ボックスチャートを使った話し合いをする。（仮説2-①②） ・終末に学習の振り返りをし、学習感想を書く。（仮説3-①） ⑤ 「たいせつ」を参考に、「一つだけ」という言葉に着目し、題名に込められた作者の思いを考える。	・ボックスチャート図を使い、個々の考えを書きこむ。 ・繰り返し出てくる言葉が、物語の中で重要な役割を果たしていることを確かめる。	エの①② ・ノート・発言
5	⑥ 登場人物の心情や情景、大切な言葉に着目して読み、「一つの花」のポスターを作る。	・教師の示した作例を参考にしながら、ポスターを作る。	ウの① ・観察
第3次	⑦ 「平和」をテーマにした本を選び、ポスターをつくる。 ⑧ 作ったポスターをもとに、友だちと交流する。（仮説2-④）	・「平和」をテーマにした本の中から、ポスターにした本を選び、ポスターを仕上げる。	アの④ ウの① エの③④ ・観察
8	⑨ 「言葉」を振り返る。 ⑩ 学習を振り返る。	・ポスターをもとに、友だちと本を紹介し合う。	オの① ・発言

- ・指導案の中で、思考ツールを使用する場面を明記し、使用目的も記入する。



6 グループで交流する。 ボックスチャート	○ 交流の仕方 ☆思考ツール「ボックスチャート」を用いてブレインストーミングを行う。友だちの考えと自分の考えを比較しながら、真ん中の枠の中にグループの考えをまとめていく。（仮説2-①②） ・気軽に話し合えるようにするため、あえて語型を使わない。 ・友達の考えを否定したり批判したりしてはいけないことを伝える。	15分
7 全体で意見を交流する。	○ 全体の交流 ☆グループ交流でまとまった意見を発表し合い、全体で交流する。父親の残したコスモスや、ゆみ子と母親の会話や行動から平和で豊かな世の中になったことに気づかせる。	10分

評価場面  
<評価規程>エの①  
<評価の方法>  
・ノートの考察  
・話し合いの様子を観察  
<手立て>  
A の児童には、自分の考えと友だちの考えとの相違点や共通点を見つけながらグループとしての考えをまとめていくよう伝える。  
C の児童には、挿絵をヒントにしながら読み取り、自分の考えを伝えるよう促す。

カ 事例Ⅰ 2年 算数「計算の工夫」～計算の仕方を工夫しよう～  
思考ツール「Vチャートの活用」



- ・児童の考えを比較、検討するために使用。
- ・児童の考えをまとめ、〇〇作戦と名前をつけ、括弧を使った計算の仕方をまとめた。

キ 事例Ⅱ 4年 国語「一つの花」  
思考ツール「ベン図・ボックスチャートの活用」



- ・戦中と戦後を比較するためにベン図を使用。
- ・共通する「コスモス」に視点を当てた。
- ・グループでの話合いで、ボックスチャートを使い、自分の意見と友達の見解を、比較検討した。

- ・全体のまとめでも、板書としてボックスチャートを使い、考えをまとめた。

(4) 業前時間の活用

- ア 国語タイム（読み取り、聞き取り、視写、漢字練習など）
- イ 読書タイム（読み聞かせ、読書マラソンなど）
- ウ 計算タイム（計算ドリル、ミニテスト、補習など）

(5) 家庭学習（家庭との連携）

- ア 「家庭で学習に向かうよりよい生活習慣づくり9ヶ条」の配布
- イ 「家庭学習のしおり」の配布
- ウ 家庭学習ノートの点検
- エ 音読カードの点検

3 成果と課題

(1) 成果

- ア 昨年の校内課題研修では国語科を中心に進め、話型を使った交流活動が深まった。今年度の思考ツールを使った授業にもその活動が生かされ、授業の活性化が見られた。
- イ 業前や家庭学習の充実が図れ、基礎基本を身につけている児童が増えた。
- ウ 思考ツールを活用することで、学習内容が整理され、ねらいに迫る話合いがなされ、学習活動が充実したものとなった。

(2) 課題

- ア 学習過程の中で、どの場面でどの思考ツールが有効かを試行しながら検証し、実践を積んでいくこと。
- イ 学力向上に繋がる思考ツールの活用になっているか検証していくこと。